

総団結で頑張ろう



N0. 2510
2008年1月1日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙



橋本地本執行委員長挨拶

2008年を迎え、組合員と家族の皆さんに、新春のお慶びを申し上げます。

今年は十二支の第一番の「子」でありまして、時刻でも午前0時と、そこからはじまりと感ぜられる年でありますが、私たちに今日まで継続してきた課題があり、国鉄の分割・民営化と



採用差別事件から20年という節目の年でありました。私たちはこの大きな節目で、何としても1047名問題の政治解決を実現させるんだという、強い決意で取り組みを強化してきました。また、東日本における一括和解から、健全な労使関係の確立により、安全・安定輸送体制の確立や、組織の強化・拡大、仕事総点検による職場改善など、多くの課題の前進に向け奮闘してきました。その中で、少しづつではありますが、成果として確認できるものもありました。さらなる創意と工夫で大きな成果を、実感できるようしていきたいかなければなりません。

一方、JR各社は会社発足20周年として、大きな宣伝とイベントを展開してきましたが、東日本においては内側で大きな変化が現れてきていると思います。この20年間差別し続けることにより、偏頗な労務管理が行われてきましたが、徐々に変わってきているのではないのでしょうか。

2008年、物事を始めるのに適した年と考え、運動的には今日までに積み上げたことの継続ですが、新たな決意で歩みたいと思います。

私たちの最大の課題である、採用差別事件の早期解決については、闘争団の上京行動や、国会議員要請行動、各自治体の意見書採択、そして各県集会和積み上げた集大成として、11・30全国大集会で政治解決を

仙総支部 庄司委員長



新年明けましておめでとうございます。本年も仙台総合車両所支部を宜しくお願い致します。

国労の最重要課題であ

求める強い決意を示すことができませんでした。1日でも早い解決に向けた、政治決断を迫るために、職場や地域からやれること、やらなければならぬことを手を抜かずに取り組み、みんなの力で政治解決実現の年にしようではありませんか。

次に、健全な労使関係の確立から、安全・安定輸送体制の確立については、一括和解後の変化が職場で実感できないことから、多くの議論が存在していますが、会社側の責任により職場への徹底させ、職場で変化を求めていかなければなりません。分割・民営以前から20年以上差別され続けて、差別されることに慣れすぎではないのでしょうか。また、管理者サイドも今までのやり方が当たり前になつてしまひ、差別しているという事に鈍くなつてしまつているのかもしれない。

何れにしても、差別のない当たり前の職場を作つて

る不採用問題の闘いは、これまでの取組みの積み重ねの上に、昨年の11・30中央大集会を成功させ、政治解決を迫る私達の強い決意と団結を示し、解決に向けた気運・世論を作り出しました。新しい年が解決の年となるように、当支部も皆さんと共に全力を尽くしてまいります。

昨年は宮城県支部を先頭とした取組みの中で4名の組織加入・拡大が勝ち取られました。このこ

とは私達にとっても大きな喜びであり励みとなりました。組織の強化・拡大なくして私達の要求の前進はありえません。仲間の皆さんの進んだ取組みに学びながら、今年は当支部においても組織の拡大が出来る様、頑張りたいと考えています。課題が山積している状況ですが、私達も仙台地方本部の一員として共に奮闘する決意を申し上げます。新年のご挨拶と致します。共に頑張ります。

いかなければ、安全・安定輸送体制を確立することはできません。また、会社の経営を発展させるには、健全な労使関係がなければなりません。そのことを意識し、職場改善と併せて取り組みを強化し、職場の問題を討論から要求として改善を求めることにより、職場の中心となって堂々と国労への加入を呼びかけましょう。貨物会社との関係でも、現在和解協議が進められていますが、この和解協議を通して国労は何を求めていくのか、本部を中心にそれぞれ議論が行われているところです。貨物会社でも和解により、差別をなくしていくことが重要だと思えます。

08春闘では、経済界がすでに賃上げに踏み切る考えを示していますが、ここまで作り上げられた格差社会の問題を前面に出し、労働界が春闘に奮起しなければならぬ状況になつてきています。そのような中で、賃上げ要求と制度改善要求を掲げ、自らの闘いとして総決起集会や、職場改善要求の実現に向け取り組んでいきます。とりわけ、貨物の賃金改善と生活改善手当の獲得を目指し、闘っていかねばなりません。

この一年は、採用差別事件の政治解決を実現させ、健全な労使関係から安全・安定輸送体制の確立、組織の強化・拡大、春闘の取り組み等、大事な課題が山積しています。総団結で頑張ります。その先頭に地方本部が立つて奮闘します。組合員と家族の皆さんのご支援をお願いし、新年の挨拶とします。



福島県支部 小檜山委員長



新年明けましておめでとう
ございます。

私たちは、JR採用差別事
件について今日まで被解雇者
いわゆる四者がまとめた「雇
用・年金・解決金」という三本
柱の具体的要求を掲げ、被
解雇四者と国労をはじめと
する四団体が総団結を堅持
し、解決の気運を高めてきま
した。被解雇者の二十年の思
いと実情を考えると、政府
によるこれ以上の引き延ばし
は許されません。

また、私たち国労組合員自
身の甘えも許されません。身
近な事柄で明日からできるこ
とを行動に移すことで国労の
主体的な解決の気運を高め
なければなりません。是非お
願います。

昨年は、JR発足以降の国
労にとって組織拡大加速の萌
しが見えた一年だったと思い
ます。浦和事件を発端とし
たJR東労組による「二六協
定問題」は、いたずらに職場



に混乱を生じさせ、ほとんどの
組合員から支持されなかつ
たことで東労組自らの求心
力を失いつつあります。

「労働時間の管理」「二六条
協定」について、あらためて認
識を高める上での今回の東
労組のアピールは決して誤り
ではありません。しかし、会
社と蜜月状態の時は、組合
員からの要員補充要求や休
日出勤に対する切実な声に
対し、労働組合として向き合
つてこなかったところに国労との
歴然とした違いがあります。

東労組が自ら墓穴を掘り
始めている客観的情勢を冷
静に見極めつつ、国労の主体
的な力で得たJR東会社と
国労東日本本部との和解を
検証し、最大限に生かしなが
ら今年も組織拡大強化に全
力を挙げましょう。

これまで小泉・安倍内閣の
下で断行されてきた「改革」
という名の富裕層擁護と弱
者切り捨て政策による格差
の拡大は広がるばかりです。

また、「食品偽装」や「年金
記録消失問題」、さらには
「防衛省疑惑」など全てにお
いて自・公政権の国民に対する
偽装といえます。それらを打
ち破るために今年予想され
る総選挙に勝利し政権交代
実現に向けて全力を挙げま
しょう。

郡工支部 橋本委員長

闘春！ 分割民営化から2
0年にして事故が多発し、郡
総においても車両故障は一
向に減る気配を見せません。
我々は鉄道車両検修労働



者として、安全輸送確立、特
に鉄道車両の安全確保のた
め、要員要求や外注化拡大
阻止等、反合理化の取組み
を強化する決意を固めてい
ます。

また、1047名の解雇撤回・
JR復帰の闘いは、全動労訴
訟判決、国労の鉄道運輸機
構訴訟判決が出されるとい
う重要局面をむかえ、一人
一人が気持ちを引き締めて
いるところでもあります。

政治状況も新テロ特措法
をめぐる、解散含みの緊迫し
た情勢となっており、棚上げ
されている労基法改訂など労
働法制改悪の動きも予断を
許しません。

本年も昨年に増して、職場
労働条件改善、安全輸送確
立、生活向上、平和と民主
主義を守るため、職場におけ
る議論づくりを基礎にしま
ら、粘り強い闘いを地道に展
開していきたいと思えます。
今年も郡工支部共々宜しく
お願いします。

東北自動車支部 大倉委員長



組合員・家族の皆さん、新
年明けましておめでとうござ
います。

年末・年始の長距離深夜便
の運行は、凍結・渋滞など過
酷な労働条件のもと、大変ご
苦労さまでした。

この二十年、正月を迎える
度に「行革・臨調」に名を借り
た、国労攻撃を昨日の様に
想い出させます。

地域の足「ローカルバス路線」
は、年々廃止されてきました。

今年もまた三月で久慈営
業所の十三路線が廃止され、
県北バスやタクシー会社によ
る「自治体バス」として四月か
ら運行されることが年末の
十二月四日に久慈市等で決
定されました。

JRバス路線の廃止は、資本
の理論「分割・民営化」が貫
徹され、弱者切り捨て営利主
義の完遂となつて現れていま
す。

しかし一方で、久慈地区労
をはじめ「地域の足を守る」
闘いの結集があり、自治体バ
スとして運行が確保された事
は、地域から大変感謝されて
います。

バスに於けるローテーション
転勤は、この様な路線の廃止
に伴い仙台や福島へ押し出さ
れる結果となつています。

営業所の廃止で帰る職場が
無くなり単身で長期間、家族
と離れて働かざるを得ない状
況が作り出されており、バス
社員の多くが国労に加入し
づらいつつなっています。が、
昨年のJRとの和解を活かし
差別を無くす闘いで、国労の
加入を勝ち取るために、自動
車支部全員で取組む年に致
します。

山形県支部 原田委員長



新年、明けましておめでと
うございます。

昨年は、多くの大衆闘争を
闘う中から解決への光を見
出した大きな一年でした。

その集約点である11・30
集会の成功は解決を迫る力
を内外に示すことが出来ま
した。

このことは、この間の意見対
立を克服し「四者・四団体」の
団結と、統一要求・統一行動
が作り出したものであり、闘
争団の仲間にも学んでいかな
ければなりません。

私たちも意見の違いを認め
合い、仲間を信じ、団結を強
化して闘っていかねばなら
ません。

このことを一人ひとりが実
践していくことが、職場の労
働条件改善と組織の強化・
拡大につながるべくと確信
します。

一年間、共に闘いましょう。



宮城県支部 秋山委員長



新年、明けましておめでと
うございます。

ご家族お揃いで年の初めを
迎えられたことと思います。

新年にあたり一言、挨拶
を申し上げます。

一点目は、JR不採用問題
の早期解決についてです。

この問題は二十年を超え
る長期の闘いになっております。
当事者である闘争団員の
年齢等を考えたとき、一刻
も早い解決が求められている
と考えます。統一要求である
「雇用・年金・解決金」が早期
に勝ち取られるよう、ご支援
とご協力をお願いする次第で
す。



二点目は、職場労働条件
改善についてです。

民営化されて二十年が経
過する中、次々に合理化が
推し進められ、私たちは日々
業務に追われているのではな
いでしょうか。こうした中、営
業職場を中心に体調を崩し
精神疾患に陥る人が増加し
続けています。

鉄道の安全・安定輸送はそ
こで働く人々の労働条件と
密接な関係があると考えま
す。職場の労働条件改善に
向けて、共に頑張りましょう。

三点目は、組織の強化・拡
大についてです。

私たちにとって重要な課題
の一つでもあります。

「仕事総点検からの点検・
摘発運動」を通じての職場改
善運動の中から、他労組か
らも将来を委ねられる組織
となるために共に奮闘しよ
うではありませんか。

いづれにしても健康が
一番であります。

またまた寒い日が続きます
が、体調に留意され、この一
年健康で幸多き年にしてい
きましょう。

